

2016 年度活動報告書

2016 年 04 月 01 日～2017 年 3 月 31 日

【2016 年度活動の方針】

モザンビークのいのちをつなぐ会設立から 4 年目。これまで当会代表が現地に住み、現地に生きる活動を主眼に、カーボデルガド州最大のスラム地区ペンバ市ナティティ地区での教育活動および農村地区での公衆衛生活動を主に、国際交流活動も展開し、現地での活動の芽が育ちつつある。

モザンビークの経済成長率の低迷や紛争、さらにはペンバ市の外資企業の撤退により、治安がますます悪化しており、現地での当会の注目度が高まるのと比例し、泥棒や強盗被害が発生しているため、安全性の確保を厳重に行い、当会スタッフ及び子供たちに被害が出ないように対策する。

ファイナンスの面では弱小団体であることから 20 本に 1 本助成金を取得できるペースであり、これまで助成金申請の時間が現地生活の 3 分の 2 を占め、かつ活動を展開しても常に人件費が無い状態で走っており、活動すればするほど当会の経済的体力が落ちていっている。

2016 年度から 2018 年度にかけては、当会の活動を日本サイドでも認知してもらうよう、広報活動を年に 1 回ペースで行ない、日本の支援者とダイレクトコミュニケーションをとり、支援の輪を広げる。また、モザンビークサイドでは当会の組織の基盤を整えるための青年有志の育成を実施する時間と、スラム地区での教育活動に時間を割き、人件費の確保と同時に、長期的に実効性のある活動を持続できるよう努力する。また現地モザンビーク NGO 法人を設立し、モザンビーク国内、欧米の助成金も探っていく。

2016 年度の活動に関しては、毎月日本事務局とモザンビーク事務局にてインターネットを用いたスカイプ会議及び役員会を実施。

【2016 年度の活動計画骨子】

＜組織基盤整備＞

長期的な活動の持続可能な体制づくり。

- ・ 現地 NGO（モザンビーク共和国に登録）の設立
- ・ 日本における広報活動
- ・ モザンビークにおけるネットワークづくり
- ・ 人材確保・育成
- ・ 車両の整備

＜教育活動＞

ペンバ市・スラムの学舎・寺子屋の設備の充実と教育活動。

- ・ 寺子屋の教育システムの充実（注力項目：音楽、e ラーニング教室）
- ・ 寺子屋建築未完成部分の完成（防犯強化、防暑設備、内トイレ、小屋等）
- ・ 日本のポン菓子製造機の運輸と稼働

＜水と公衆衛生活動＞

生きるための水を自立的に確保できる仕組みと、疾病リスクを軽減するための美化活動。

- ・ ペンバ市◇共同水タンクの建設
- ・ ペンバ市◇ペンバ青年美化活動
- ・ クイサンガ農村地区◇トレーニングセンター「(仮) SATLIC」建設準備

＜環境バイオマス活動＞

環境保全と貧困改善、現地の QOL 向上に直接役立つ環境・バイオマス活動。

- ・ 日本・クイサンガ農村地区◇練炭製造機の開発
- ・ 日本・寺子屋◇高効率かまどの開発
- ・ クイサンガ農村地区◇有機農業、灌漑ダムの建設

＜国際交流活動＞

グローバル社会における創造的意識づくり（人づくり）活動。

- ・ 日本の学校での講義活動
- ・ マコンデ族・ナジャのアミーゴ公演（東京・大阪・福岡 35 公演）
- ・ 日本人アーティストのペンバ招聘事業

【2016 年度の主な活動】

● 組織基盤整備

長期的な活動の持続可能な経営・人的体制づくり。

《現地 NGO 法人の設立》

現地青年有志の意識も高まっているため、現地青年による NGO（代表：Luis Valerio）を立ち上げ、モザンビーク国内の助成も申請できるよう現在、モザンビーク政府に NGO 法人申請を行っている。現地での NGO 申請はハードルが高いが、associacao(協同組合)の設立の可能性も含め進行中。共に活動を展開してきた青年たちの資料作成能力や交渉力を高めるためにも挑戦している。

《日本における広報活動》

当会を設立し、代表が常に現地モザンビークに張り付いているため、日本国内での人的つながりが希薄なままであるため、日本国内での認知度を高め、これまでアフリカの中でも手付かずのモザンビーク共和国への社会貢献活動に理解していただけるよう、本年度から 2018 年度にかけて年に 1 回日本でのイベントを実施しつつ、持続的に働きかけていく。2017 年夏秋の講演公演活動は確定。

《モザンビークにおけるネットワークづくり》

当会所在地は首都マプトから離れており地理的に孤立状態にあるので、本年から首都の JICA、日本大使館、日系企業やその他地方の国際 NGO を訪問し、情報交換や視察を行ない今後の施策立案企画の参考としていく。2017 年 2 月には初の首都面談出張を実施し、JICA や大使館と会合を行った。

《人材確保・育成》

現地モザンビーク共和国ペンバで NGO 活動している日本人は当会代表一人のみであり、日常的に人財不足のため、ボランティアスタッフの受け入れを積極的に行う。また現地青年有志のスキルアップのための教育も当会のペンバ市での寺子屋教育活動や美化活動、また農村地区で計画している技術研修システムの確立等の活動全般を通して行っていく。

《車両の整備》

2015 年末に個人から購入した中古自動車がメンテナンス直後に、ブレーキトラブルにより 2016 年 6 月に事故に遭い廃車。限られた予算のなかで、現地で中古車を購入することはリスクがあるが、現地の治安の悪さもふまえ、車両を保有しておくことは必須なので 2017 年夏にナンプラ市の中古車販売店で購入予定。

その他《会費・寄付金のあり方を模索》

当会ではこれまで定期的な会費・寄付金に依存しない方法をとってきている。理由は現在の NGO の主流な資金調達広報方法は、通信販売業界の販促施策と類似しており、ビジネスの仕組みを分かっている層からの納得を得にくいからである。とはいっても、現地活動での当会を含めた働く人たちが活動をして

も収入を得られない事態が続いているため、当会および協力者が納得のいく方法を模索し、決定し次第、ホームページに連動していく。

その他《事務局の整備》

ペンバ・ナティティ地区の治安悪化により事務局（モザンビークの伝統的な土と石を基礎にトタン屋根をつけた家）の防犯も強化していく。また猛暑により室温が40度を超えているので、冷房も設置予定。



事務局にも泥棒の侵入が増えているので竹垣をブロックにして防犯を強化。

【 教育活動 】

ペンバ市スラムの学舎・寺子屋および事務局の設備の充実と教育活動。



《寺子屋の教育システムの充実》音楽、パソコン教室等

音楽教室を本格始動。楽器類を調達し、毎週音楽教室を実施。寺子屋以外の仮設スタジオでも青年向けの音楽教室を実施。現在、パソコン教室や算数、何でも教室も実施しているが、特に人気なのが、音楽教室。音楽教室をつかみに、算数や読み書き指導も行っている。



寺子屋での音楽教室



仮設スタジオでの音楽教室



左) タンザニア・ザウオセミュージック家にてカリンバ購入。

右) 日本事務局へ鍵盤ハーモニカの寄付が届いており 2017 年に国際船便でモザンビークに郵送。



板と自転車ブレーキワイヤーで手作りのギターを作ってくる子供もおり大人気の音楽教室。



音楽教室と並行して実施している、英語教室も人気が高まってきています。



寺子屋ご近所の大工をお願いして勉強机を製作。



大阪の公立小学校との似顔絵交流：寺子屋と事務局の2ヶ所で実施。



大阪の公立小学校とのスカイプ交流：寺子屋と事務局で実施。



日本から寄贈された鍵盤ハーモニカ 40 基が 2017 年 1 月 寺子屋に到着。

寺子屋ギター教室。



交流活動を行っている大阪の公立小学校の生徒さんの写真を寺子屋に飾っています。

《寺子屋建築未完成部分の完成》

建築途中で資金不足になっている、防犯設備、防暑設備、資材保管小屋、水ポンプの設置、安全設備等の建設・強化を行い、建築の完成を目指す。治安の悪化による人的被害やコストロスが生じているため、特に防犯の強化と、移動・運搬用途で使用する自動車の確保を重要視する。



窓ガラスの未設置箇所窓ガラスを増設。防暑用天井板も部分的に設置しています。

その他、資材保管小屋やマラリア予防のためのベランダ部分の虫除け網の設置等徐々に設備を整えていく。

《日本のポン菓子製造機の運輸と稼働》

2016 年 4 月に福岡県より国際郵便の船便で発送したポン菓子製造機が 7 月にペンバに到着。
2017 年 4 月から稼働開始。



2016 年 7 月、スラムの学舎・寺子屋にポン菓子製造機（20キロ2小口）到着。郵便局では受取にも料金がかかり、本機受取料は約 9,000 円。

【 水と公衆衛生活動 】

生きるための水を自立的に確保できる仕組みと、疾病リスクを軽減するための美化活動。

《ペンバ・共同水タンクの建設》

人口増加とカーボデルガド州行政の水供給施設配水システムの不具合により水不足が年々深刻になっており、2015年には州都ペンバでさえも、3ヶ月水道から水が出ないことがあったため、スラム地区の管理ができる場所に、共同水タンクを設置し地域住民が水不足に陥った時に使用できるように整備した。水泥棒が多いため、管理できる寺子屋に3000リットル円柱形プラスチック水タンクを設置。



水タンクを転がし運搬。



寺子屋地下タンクの上部に建屋建設。



建屋の上に、水タンク（3000L）を設置。



2017年度には、事務局にも共同水タンクを設置し、ナティティ地区2万人・約3000世帯の緊急水配給施設として稼働する。

《ペンバ・ナティティ青年美化活動》

2015年度に続き、第2回目となるナティティ青年美化隊による美化活動を実施。現地青年有志によりゴミが散乱し衛生状態が酷いペンバのスラム地区のゴミ拾い活動と、地域住民への美化意識の浸透を図る。環境美化をテーマにした音楽を使った啓蒙活動を行うことで、周知徹底を広げる。

2016年度は、1月から10名の青年有志と美化活動を実施している。



左) 昨年度清掃を行った地区はゴミゼロ状態をキープ。右) 反対側のゴミ清掃をしてない地区。



2017 年 1 月から第 2 回ペンバ美化活動を実施中。行政ともコラボを行っている。



衛生美化観念定着のために重要な音楽での啓蒙を図るクリーンアップコンサートは、モザンビーク大統領夫人と、スワジランド王妃の会合パーティにて、2017 年 2 月に実施。当会の紹介等も行ない、非常に好評であった。

《クイサング農村地区・トレーニングセンター建設準備》

トイレと井戸の設置に関する技術ノウハウを、NGO や企業・団体に対して行うトレーニングセンター『SATOLIC』の建設に向けて助成金を申請。公衆衛生設備だけでなく、大工、鉄加工技術も教えられるようなトータル・トレーニングセンター現在、少しずつ設備を整備していつている。



企画している設計図。



鉄加工技術研修

【 環境・バイオマス活動 】

環境保全と貧困改善、現地の QOL 向上に直接役立つ環境・バイオマス活動。

《日本・クイサング農村地区 練炭製造機の開発》

伝統的な土をかぶせて薪を燻す木炭づくりは2ヶ月以上時間がかかるため、日本の技術を導入し、枝葉や木くずから木炭をつくる練炭製造機をモザンビークで稼働させる。木炭は一般市民の重要な調理火力であるが、木炭価格が上昇しており、バイオマス技術を用いて、安価で製造、販売できるようにする。

2016 年度日本での練炭製造機の開発を熊本・阿蘇で行っていたが、4月の震災の影響で開発作業が遅延している。



クイサング地区での木炭の製造過程。2ヶ月ほどかかる。



農村地区で生産される木炭。幹線道路沿いで販売されている。1袋 70 キロ約 300 円

《日本・寺子屋 高効率かまどの開発》

木炭を使用する町部で使用するかまどは効率が非常に悪く木炭を大量に消費する。また農村部では薪を土の上でそのまま使用しているため、熱効率が悪い。寺子屋で製作できる高効率かまどの開発を日本で実施。



農村での薪料理。



町での木炭料理。



日本で考案中のセメントと土と竹クズで作る高効率かまど。

《クイサンガ農村地区 有機農業、灌漑ダムの建設》

食料価格の高騰や干ばつにより農作物の確保がますます重要になっている。

また無計画な野焼きや、違法伐採によりモザンビークの森林は急激に減少しているため持続可能な有機農業を引き続き行ない、トラクターの購入助成申請も行っていく。

また、米国石油ガス企業アナダルコの支援により灌漑ダムを建設。



2016 年度の有機農業。食料難のため米、トウモロコシ、豆等主食の栽培も実施していく。



米国アナダルコの支援により灌漑ダムの建設中。

【 国際交流活動 】

グローバル社会における創造的意識づくり（人づくり）活動

《日本の学校での講義活動》

国際協力活動やアフリカ・モザンビークの文化紹介による日本・アフリカ相互理解促進を目的に、小学校や大学、公民館で講義活動を実施。

北九州市立朽網小学校、門司大里南公民館、門真市砂子小学校

関西国際大学、北九州市立大学、近畿大学、京都大学等



関西国際大学経営学部での講義 北九州市立大学外国語学部での講義

《マコンデ族・ナジャのアミーゴ公演》

上記講義活動とも連動し、2015 年来日公演したマコンデ族アーティスト・ナジャの音楽文化公演を福岡・大阪・東京を中心に 40 箇所で開催した。内戦経験者であり当会の現地活動も行っているナジャによる文化・活動紹介、また質問コーナーも設け、現地の暮らしぶりへの理解促進に貢献した。



日田・リベルテ公演



門司・アフリカンフェスタ公演

《日本人アーティストのペンバ招聘事業》

日本・モザンビークの文化交流の一環として、当会の文化活動に協力いただいているミュージシャン七尾旅人氏のワークショップを 2017 年 3 月にペンバで実施。



寺子屋に老若男女 100 名以上が集まり、日本の文化音楽の紹介。ドレミ合唱等を実施。

わたし 活性化計画



毎週土曜掲載

ウェブサイト「ファンファン福岡」で、榎本恵さん(43)北九州市出身が月1回のコラム「モザンビーク便り」を連載している。同国はアフリカ南東部にある最貧国の一つ。現地で非政府組織(NGO)を立ち上げ、環境や教育問題に取り組む榎本さんが、「セメント式ほっとん便所の作り方」「酔っぱらいが多いスラムの地酒事情」など、同国を身近に感じる現地の情報を紹介している。

9月のテーマは、男女の平均寿命が57・6歳(世界保健統計2016年版)のモザンビークに高齢者はいるのか、という話題。独自に調べた結果をつづっている。

榎本さんによると、今夏、111歳を迎えた女性が現地



モザンビーク 高齢者はいる？

北九州出身・榎本さんが現地コラム

祖父(79)と左に写る榎本さんの知人(23)。榎本さんによると、80歳を超える人はめったに見られないという



で話題になったが、「戸籍がない人も多く、真偽のほどは不明」とのこと。現地で認知症について聞いて回ったところ、どんなに説明しても理解されなかった。認知症の概念

がなさそうなのは、「認知症になる前に亡くなるからだろうか」と考える。

同国は大家族が多く、高齢者は家族が見守る中、安らかに息を引き取ることが多いという。「長寿ではなくても家族にみとられて自然に亡くなる。幸せな人生の終わり方ですね」。現地で生活しているからこそ気付く榎本さんの視点や考察に、考えさせられることは多い。

一時帰国中の榎本さんと、同国で暮らすマコンテ族のナジャさんによる音楽の公演が、福岡をはじめ各地で開かれている。日程などはファンファン福岡のページ<http://fanfunfukuoka.com/event/60239/>を参照。

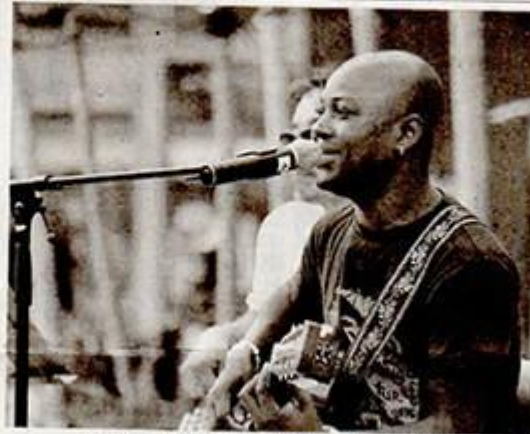
(一木明子)

毎日新聞
25 地域 2016年(平成28年)10月21日(金)

「平和を取り戻したい」 モザンビーク共和国のナジャさん

マコンデ族の歌を披露

小倉北



マコンデ族の歌を披露するナジャさん

最貧国の一つ、アフリカ東海岸のモザンビーク共和国からマコンデ族の人気歌手、ナジャさん(29)が北九州市

ンで、アフリカ特有のリズムのマコンデ族の歌を披露した。小倉南区朽網西に本部があるNGO「モザンビークのいのちをつなぐ会」(根本恵代表)が招いた。

マコンデ族は主に同国の北部に居住する。内戦は終結したものの、政治的な混乱で南部の首都からの物資の輸送が滞り、経済的に苦しい状況が続く。現地で学校建設などにも携わるナジャさんには「歌に人生の生き方を託し、平和を愛するマコンデ族の文化を知ってもらい、日本の人々の支援で平穏な日々を取り戻したい」という。公演では、天使を意味する「マライカ」や、浮気の怖さを描く「スクールサル」などを歌い、拍手を浴びた。市内での一般向けのライブは次の通り。23日午後7時、小倉北区紺屋町、スタジオ「パフ・ボックス」(有料)▽11月6日午後2時、門司区谷町、松浦孝アトリエ。問い合わせは同会093・472・1444。【塩満温】

10月26日(水曜日) 言宣 楽所 北九州 13 S

モザンビーク「6割貧困」

NGOの榎本さんから 朽網小で講演

アフリカのモザンビークで教育支援活動をしている民間活動団体(NGO)「モザンビークのいのちをつなぐ会」の榎本恵代表(43)らが25日、北九州市小倉南区の市立朽網小で、6年生約50人に現地の人々の暮らしぶりなどを語った。

榎本さんが朽網小出身という縁で、一時帰国に合わせた講演を学校側に提案。榎本さんは、モザンビークが1975年にポルトガルから独立後、92年まで内戦が続いたことなどを説明し、「失業率が高まり、人口の6割が貧困状態にある」と話した。

また、NGOの現地スタッフでミュージシャンとしても活躍するナジャさん(29)が、太鼓などの伝統楽器の演奏を披露。ナジャさんは「現地の子どもたちは将来に夢を持つことさえ難しい。帰国したら、日本の子どもたちがどんな夢を持っているのか聞かせてあげたい」と語った。

モザンビークの暮らしなどについて語る榎本さん(左)とナジャさん

福岡放送 2016年10月25日(火) めんたい plus



他、10月28日(金) JCOM デイリーニュースでも放送

以上

2016 年度 (2016 年 4 月 1 日~2017 年 3 月 31 日) 収支報告表

(単位: 円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1. 受取会費		120,000	
2. 受取寄付金		20,000	
3. 助成金/JICSNGO		999,753	
4. 助成金/TOTO水環境基金		1,000,000	
5. 助成金/積水マッピング基金		200,000	
6. 助成金/大阪コミュニティ財団		1,000,000	
7. 助成金/ひろしま祈りの石財団		74,200	
8. 助成金/日蓮宗あんのん基金		500,000	
9. 助成金/地球環境日本基金		1,564,000	
10. 助成金/福岡NGOネットワーク		200,000	
11. 助成金/連合愛のキャンパ		500,000	
12. 助成金/北九州市文化振興事業		200,000	
13. 助成金/国際交流基金		500,000	
14. 助成金/北九州ミュージックアロマナート助成		50,000	
15. 助成金/愛恵福祉支援財団		200,000	
経常収益計			7,127,953
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
モザンビーク人アルバイト費	1,550,000		
モザンビーク事務局人件費	200,000		
人件費計	1,750,000		
(2) その他経費			
●寺子屋プロジェクト			
建築資材・製作購入費	925,000		
職人委託費	140,000		
●寺子屋・事務局教育費			
教材購入費	324,000		
旅行交通費	223,000		
●ペンバ水タンク設置事業			
資材・建材購入費	778,984		
●事務局設備整備			
職人委託費	172,800		
●ペンバ環境美化活動			
資材購入費	878,000		
舞台運営費	100,000		
委託費	100,000		
●国際交流活動			
旅行交通費	821,000		
舞台運営費	222,000		
●その他			
通信費	44,000		
印刷費	164,000		
その他経費計	4,892,784		
事業費計		6,642,784	
2. 管理費			
(1) 人件費			
寺子屋ガード人件費	33,000		
人件費計	33,000		
(2) その他経費			
現地NGO取得費用	50,000		
その他経費計	50,000		
管理費計		83,000	
経常費用計			6,725,784
当期正味財産増減額			402,169
前期繰越正味財産額			△ 629,340
次期繰越正味財産額			△ 227,171